下記様式の変更は不可とします。

。

この領域は事務局使用 縦５行×横 12 文字 （10Ｐ）

三和苑装飾活動!! ビフォー・アフター

～作業療法による、心身活性化の試み～

作業療法
回想法
昭和の町づくり

熊本県　熊本市

通所介護・三和苑デイサービスセンター

介護職・泉 宣行（いずみよしゆき），看護職・川上 清美（かわかみ きよみ）

中村浩二・渡辺千夏・井野きくの・
宮崎弘子・本田由美子

E-mail　sanwaen@sanwaso.jp

今回の発表の施設またはサービスの概要　10p	当施設は熊本市西部の利便性と自然環境に恵まれた所に、平成 19 年 10 月に開設した、定員 30 名の通所介護事業所です。目標として「安心」「信頼」「満足」を掲げ、家庭的な雰囲気の中「笑い」の絶えない明るい事業所作りに努めています。

＜取り組んだ課題＞

三和苑デイサービスセンターは、開設から５年目を迎えた。開設当初は床や壁もきれいだったが、月日とともに、だんだんと汚れや傷が目立ってきた。建物内外の装飾にもあまり変化がなく、刺激の乏しい環境の中で、利用者に毎日過ごしていただかなければならないことが、一つの課題であった。

そこで施設内外の装飾を見直し、数か所をリストアップして、明るく、居心地が良い雰囲気の環境に改造しようと考えた。それも、作業療法を取り入れ、利用者の皆さんと力を合わせて、大がかりにやる計画を立てた。

考えたり、実際に切ったり、それに塗ったり、それを組み立てたりして、一つずつ物を完成させていく作業過程の中で、利用者一人ひとりの心身にどのような効果がもたらされるのかを研究してみたいと思い、この課題に取り組んだ。

＜具体的な取り組み＞

① 職員の話し合いの結果と、利用者の意見をもとにして、装飾箇所を設定する。(⇒玄関口、浴室、廊下、外壁、ホール)
② 装飾に必要な物品リストの作成、準備・発注ををする。(⇒ペンキ、絵の具、色紙、段ボール多数)
③ 日ごとの作業内容と担当職員を決める。(何を、誰が、どのようにする　等)
④ 主な活動時間は、15:00～15:50 とする。
⑤ 職員が利用者と一緒に作業を行う。
⑥ 利用者同士が交流を図る場とする。
⑦ 各個人の好みや能力に合った作業に導く。
⑧ 疲れたら休憩を取るようにし、無理をさせない。
⑨ 自由意志を大切にして、参加を強要しない。
⑩ 毎日の夕礼時に、必ず反省の時間を設ける。
⑪ 一カ月ごとの職員会議で、評価と、計画の修正や再立案をする。

＜活動の成果と評価＞

・ 活動参加状況、全利用者の１割→９割へ向上。
・ 「できない・関心がない」から、次第に、
　→「自分でもできる・面白い」に変化。
・ 職員が利用者の前で会話を交えながらじっくり取り組むことで、少しずつ参加に向かって気持の変化が起きた。
・ 一つのもの（装飾）が完成すると、達成感や満足感による喜びが得られ、
　→次の作業の意欲や展開につながった。
・ 認知症のある利用者の帰宅願望が、他の人と一緒に作業することによって、消失していった。
・ 作業中は昔のことをよく話され、いろんな話題で活気があふれ、また、他の利用者との交流も進み、回想法としても役立った。
・ 利用者と職員とが一緒に物作りに取り組むことによって、相互の信頼関係も構築され、
　→徐々に展開が広がる動機づけになった。
・ 出来上がった装飾には、参加した一人ひとりの思いがこもり、また、協同で行ったことによる一体感も生まれ、利用者にとって居心地の良い空間作りができた。
・ 作業を展開する上で、職員間の連携も大事になり、チームワークに関する各職員の自覚も深まった。
・ 職員の意欲的な働きかけ（ケア）が利用者に反映することが再認識させられた。

＜反省と今後の課題＞－

当初、準備不足などでスムーズに作業が行えない日もあった。また、利用者への作業の依頼に偏りが出たケースもあった。

今後の課題として、利用者が飽きられないよう時間を空けながら、定期的に行っていくこととし、ゆとりをもって準備・実施して行きたい。